

建築生産系国際ワークショップ(マレーシアワークショップA)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年10月15日 ～2025年10月24日	日本	トゥンク・アブドゥル・ラーマン 大学	・建築学科、建築学専攻 ・学部3年生、学部4年生、修 士1年生、修士2年生	(芝浦工業大学) 学生39名、学生バイト1名、 教員2名 (トゥンク・アブドゥル・ラーマン 大学) 学生10名、教員1名	志手 一哉(建築学科)、蟹澤 宏剛(建築学科)



図1 オリエンテーションの様子

マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学(UTAR)コンストラクションマネジメント学科の学部生10名と、芝浦工業大学で建築生産を専攻する学部生・大学院生39名が合同で、本学豊洲キャンパスにて建築生産系国際ワークショップを実施しました。ワークショップのテーマは「デジタルファブリケーション」とし、コンピューター数値制御ルーター(CNCルーター)を用いた簡単な家具製作に取り組みました。CNCルーターを制御し、製作したい家具を3次元CADで設計する取り組みは、マレーシアではまだあまり普及していません。本学とUTARの学生が6つの混成グループを編成し、小さな椅子やスマートフォン用スピーカーなど、学生が自らデザインした家具を製作する、貴重な経験を得ることができました。ワークショップでは、(株)竹中工務店技術研究所や清水建設(株)の大規模工事現場の見学も実施し、最先端の建設技術に触れる機会も得ました。これらの見学で学んだことを各グループが20分間のプレゼンテーションにまとめ、熱海セミナーハウスにて成果発表会を行いました。熱海では、「昭和モダン」と称される観光資源再生の視察や、小田原への移動による日本の城郭建築の学習も行いました。両校の学生は密度の濃い交流を深め、本ワークショップは充実したグローバルPBL(Project-Based Learning)となりました。



図2 浴衣を着た集合写真



図3 ワークショップの様子1



図4 ワークショップの様子2



図5 CNCルーター



図6 熱海セミナーハウスでの集合写真